

平成29年度北海道大学大学院

文学研究科修士課程入学試験問題（後期）

試験区分	<input checked="" type="checkbox"/> 一般入試 <input checked="" type="checkbox"/> 外国人留学生特別入試 <input checked="" type="checkbox"/> 社会人特別入試
試験科目名	<input checked="" type="checkbox"/> 専門試験（西洋文学） <input type="checkbox"/> 共通外国語（）
出題の意図	西洋文学科目の問題は、英米・英語圏文学、ドイツ文学、ロシア文学、フランス文学および西洋古典学（ギリシア語・ラテン語）の各分野から出題されている。出題の意図は、修士課程の標準修業年限内に修士論文を提出するための前提条件を満たしているかどうかを問うものである。具体的には、それぞれの分野における基本的な文学史・文学理論等に関する知識レベル及び欧文（英語、ドイツ語、ロシア語、フランス語、ギリシア語、ラテン語）文献の読解力を判定する。

平成29年度  
北海道大学大学院文学研究科修士課程入学試験問題（後期）  
（専門試験） 西洋文学 全11枚のうち1枚目

この試験では、試験問題 11枚、解答用紙 2枚を配付する。

解答における注意

（専門試験）西洋文学の出題範囲は、英米・英語圏文学、ドイツ文学、フランス文学、ロシア文学、西洋古典学です。志望する分野に応じた出題範囲の問題を選択し、その設問 I と設問 II に答えてください。

解答用紙は2枚あります。それぞれの解答用紙の回答欄の1行目左に、出題範囲と設問番号を記入してください。各設問は別の解答用紙を使ってください。

出題範囲・設問・ページ

英米・英語圏文学	設問 I・設問 II	2～3
ドイツ文学	設問 I・設問 II	4～5
フランス文学	設問 I・設問 II	6～7
ロシア文学	設問 I・設問 II	8～9
西洋古典学	設問 I・設問 II	10～11

## [英米・英語圏文学] 設問 I

Choose two literary terms out of “allusion,” “empathy,” “local color,” and “synesthesia” and then discuss each term separately. Where does it come from? How does it work? Has its function changed? Demonstrate your understanding of each term, first by its original definition and then by its current use in English literature. Make sure you explain its characteristics by referring to at least two literary texts in order to effectively prove your idea(s).

On the first literary term of your choice, please write the essay in Japanese, though you may refer to the texts' titles and term(s) in English. The essay on the second literary term you choose has to be written in English. You may write as much as you wish within the given time.

[英米・英語圏文学] 設問 II

以下の英文を、和訳しなさい。

- \* 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務担当の窓口で閲覧してください。

出典 Margaret Drabble. "A Beastly Century." *American Scholar* 70.1 (2001): 160.

設問 I [ドイツ文学]

次のドイツ語の文章を日本語に訳しなさい、

- \* 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務担当の窓口で閲覧してください。

出典 Ruth Klüger, Gelesene Wirklichkeit, Göttingen 2006, S. 68.

設問Ⅱ【ドイツ文学】

次の2問に答えなさい。

問1 次の①～③の中から1つを選んで簡潔に説明しなさい。

- ① イロニー (Ironie)
- ② 言語論的転換 (Linguistische Wende)
- ③ テオドール・フォンターネ (Theodor Fontane)

問2 次の文章中の下線部について、その意味内容を具体的に説明しなさい。

**\* 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、  
下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務担当の窓口で閲覧してください。**

出典 Hitler, Mein Kampf. Eine kritische Edition. Hrsg. von Christian Hartmann, Thomas Vordermayer, Othmar Plöckinger, Roman Töppel. Im Auftrag des Instituts für Zeitgeschichte München – Berlin, 2016, Bd. 1, S. 11.

設問I [フランス文学]

以下のフランス語の文章をすべて和訳しなさい。

- \* 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務担当の窓口で閲覧してください。

出典: Paul Valéry, *Introduction à la méthode de Léonard de Vinci*, Gallimard, « folio », 1992, p. 9.

設問Ⅱ [フランス文学]

以下のフランス語の文章をすべて和訳しなさい。

- \* 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務担当の窓口で閲覧してください。

出典：Albert Camus, *Le Mythe de Sisyphe*, in *Œuvres Complètes*, tome I, Gallimard, « Bibliothèque de la Pléiade », 2006, p.301.



[ロシア文学] 設問 I

次にあげる人物のうち一人について、その文学史上の意義を含めて説明しなさい。

1. И. А. Крылов (1769-1844)
2. Ф. И. Тютчев (1803-1873)
3. А. Н. Островский (1823-1886)
4. Л. Н. Толстой (1828-1910)
5. Б. Л. Пастернак (1890-1960)

[ロシア文学] 設問 II

次の文を日本語に訳しなさい。

- \* 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務担当の窓口で閲覧してください。

出典 *Сахаров В.И.* Русская проза XVIII-XIX веков. М., ИМЛИ РАН, 2002. С.178.

## [西洋古典学] 設問 I

次の文を日本語に訳せ。また、この著者及び著作(以下の文章の出典たる著作だけに限らない)について、知るところをなるべく詳細に述べよ。

Δίωσι τῷ χρυσῷ τὴν γλῶτταν ἐποιήθη βιβλίον, κόμης ἐγκώμιον, οὕτω δὴ τι λαμπρόν, ὡς ἀνάγκη εἶναι παρὰ τοῦ λόγου φαλακρὸν ἄνδρα αἰσχύνησθαι. συνεπιτίθεται γὰρ ὁ λόγος τῇ φύσει· φύσει δὲ ἅπαντες ἐθέλομεν εἶναι καλοί, πρὸς ὃ μέγα μέρος αἱ τρίχες συμβάλλονται, αἷς ἡμᾶς ἐκ παίδων ἢ φύσις ἀκείωσεν. ἐγὼ μὲν οὖν καὶ ὀπηνίκα τὸ δεινὸν ἤρχετο καὶ θριξὶ ἀπερρῦη, μέσην αὐτὴν δέδηγμαί τὴν καρδίαν· καὶ ἐπειδὴ προσέκειτο μᾶλλον, ἄλλης ἐπ' ἄλλη πιπτούσης, ἤδη δὲ καὶ σύνδυο καὶ κατὰ πλείους, καὶ ὁ πόλεμος λαμπρὸς ἦν, ἀγομένης καὶ φερομένης τῆς κεφαλῆς, τότε δὴ, τότε χαλεπώτερα πάσχειν ὤμην ἢ ὑπ' Ἀρχιδάμου τοὺς Ἀθηναίους ἐπὶ τῇ δενδροτομίᾳ τῶν Ἀχαρνῶν, ταχύ τε ἀπεδείχθη ἀνεπιτήδευτος Εὐβοεύς, οὗς ὄπιθεν κομόωντας ἐστράτευσεν ἐπὶ Τροίαν ἢ ποιήσας.

Synesius Cyrenensis, *Calvitii Encomium*, I 1-2

註:

- ・ Δίωσι 著作家 Dion Chrysostomus のこと
- ・ λόγου ここでは Dion の著作 κόμης ἐγκώμιον (の言説) を指す
- ・ φαλακρὸν 禿頭の
- ・ συνεπιτίθεται ここでは「〜と (+ dat.) 一緒になって〜に (+ dat.) 攻撃を加える」
- ・ συμβάλλομαι 貢献する
- ・ ἀπορρέω 離れ去る、落ちる
- ・ δέδηγμαί τὴν καρδίαν 「心を嘔まれる思いがした」(アリストパネス『アカルナイの人々』の引用)
- ・ ὑπ' Ἀρχιδάμου ... Ἀχαρνῶν ラケダイモン人の王アルキダモスの率いる軍勢によってアッティカ地方が荒らされたという故事(トゥキュディデス『歴史』第2巻)を指す
- ・ ἀπεδείχθη ἀνεπιτήδευτος Εὐβοεύς 「みっともないエウボイア人として示された」
- ・ ἢ ποιήσας (ホメロスの)「詩作」(ὄπιθεν κομόωντας は『イーリアス』第2巻の引用)

## 〔西洋古典学〕 設問Ⅱ

次の文を日本語に訳せ。また、この著者及び著作（以下の文章の出典たる著作だけに限らない）について、知るところをなるべく詳細に述べよ。

Saepe a me, Innocenti carissime, postulasti, ut de eius miraculo rei, quae in nostram aetatem inciderat, non tacerem. Cumque ego id verecunde et vere, ut nunc experior, negarem meque adsequi posse diffiderem, sive quia omnis humanus sermo inferior esset laude caelesti, sive quia otium quasi quaedam ingenii robigo parvulam licet facultatem pristini siccasset eloquii, tu e contrario adserebas in Dei rebus non possibilitatem inspici debere, sed animum, neque eum posse verba deficere, qui credidisset in verbo.

Quid igitur faciam? Quod implere non possum, negare non audeo. Super onerariam navem rudis vector inponor, et homo, qui necdum scalmum in lacu rexi, Euxini Maris credor fragori.

Hieronymus, *Epistula I*, 1-2

註：

- ・ Innocentius ヒエロニムスの友人の名
- ・ diffido + inf. 「(～することに) 疑念をいだく」
- ・ robigo さび
- ・ sicco-are 干上がらせる
- ・ deficio (tr.) 見捨てる
- ・ vector 運搬人
- ・ scalmum 樗栓、オール受け
- ・ fragor どよめき